

最優秀賞 (個人)

古賀 美子さん

公園愛護活動のリーダーとして、 周辺の高校などを巻き込み地域での問題を解決。



公園内の清掃用具小屋



古賀美子さん

町内の公園愛護、河川敷の花づくりなど地域住民のリーダーとなり、地域の環境美化に尽力。

町内には大きな2つの公園があり、当番を割り振りして清掃を実施しているが、高齢化などで用具の運搬が大変な負担となっていた。それを解決するため、近くの福岡市立博多工業高等学校に相談したところ、同校の協力を得て各公園内に清掃用具小屋を建ててもらえることとなった。これにより、地域住民での清掃が継続できている。

また、これがきっかけで、同校の生徒が清掃活動に参加するようになり、その姿に共感した地域のボーイスカウトも一緒に活動するようになった。

地域での問題に率先して取り組み、周辺の学校も巻き込み解決していくことで、地域の環境美化に大いに貢献している。



地域住民やボーイスカウトによる清掃活動



最優秀賞 (市民団体)

城南区さわやかなの会

同会の提案により始まった大学のリサイクルマーケット。 大学・学生・地域・行政が連携し地域に定着。



▼▲福大リサイクルマーケット

平成6年に会を結成し「無理をせず、補い合って、楽しく活動」をモットーに環境や福祉に関する活動を行っている。

その中で、福岡大学の卒業時に粗大ごみとして出される家具類が、集積場から路上まではみ出していた状態を解決できないかとのメンバーの提案により、卒業時に不用になった家具類を新入生に提供するリユース活動を平成7年から実施。来場者は毎年700人を超える。

毎年入れ替わる学生スタッフの指導を行いながら運営を支えるほか、開催当日の入場待ち時間を利用して、新入生などに、ごみ分別クイズや福岡市のごみ処理についての説明も行っている。

同会と大学・学生・行政がそれぞれの役割で連携し、学生や地域に定着した事業となっている。

▼ごみ分別に関するクイズ



▼たくさんの学生スタッフが協力



最優秀賞 (事業者)

株式会社西鉄シティホテル

様々な環境負荷低減活動に取り組み、 日本初の「エコホテル認証」を取得。



LEDを使ったフロアの照明



詰替えボトルや簡易包装のアメニティ用品

社内の「環境委員会」を中心として、ごみの発生量・減量の状況を毎日計量して「見える化」を図り、新しい努力目標の設定をしている。また、3Rの取り組みに力を入れ、客室のアメニティ用品等は、繰り返し使用できるタイプに変更してリデュース、備品等はリユース、生ごみは堆肥化や家畜の飼料として契約農家に提供。その堆肥で栽培された米を購入する「食品リサイクル」にいち早く取り組んでいる。

さらに、テナント業者も参加した「省エネ推進委員会」で毎年新しい目標を設定。今年目標は「光熱費の見える化による使用量削減」で、省エネルギーセンターによる省エネ診断を受け、改善に取り組み、「こまめな消灯運動」を活性化。また、館内の全照明器具の調査を行い、更新時には電球型蛍光灯、Hf蛍光灯、LED電球を順次導入している。

このような多岐にわたる環境負荷低減への取り組みが評価され、平成21年7月に日本初の「エコホテル認証」を取得している。



エコホテル認証書

最優秀賞 (学校)

福岡市立内野小学校

絶滅危惧種のヒナモロコやホタルの飼育を通して、 身近にある自然と水を守る環境教育を実践。



▲ヒナモロコ…日本では九州北部の河川だけに生息するコイ科の魚



▲ホタルの幼虫の世話をする子どもたち
子どもたちの世話により、大きく育ったホタルの幼虫▶

内野小学校は自然豊かな環境にある。しかし、昭和38年の水害で川が護岸工事されたことや、山や森林の違法造成や不法埋立、乱開発などにより、生物が激減したことから、自然と水を守ることを子どもたちに教えたいと、20年ほど前から地域の方が関わりホタルの飼育を行っている。

また、新校舎が完成した平成15年から絶滅危惧種であるヒナモロコ20~30尾程の飼育を始め、田主丸のヒナモロコ里親会と交流しながら飼育を続け、現在は、700~800尾以上にまで繁殖している。飼育にあたっては、5、6年生の理科委員会とPTAの環境委員会が協力して、毎日餌やりや日誌の記録、水槽の清掃などを行っている。

今年の10月には政令指定都市の代表校が参加する「なごや子ども環境会議」で、5年生の代表2人がホタルやヒナモロコの飼育、内野校区に生息する生きものについて発表した。

絶滅危惧種のヒナモロコやホタルの飼育を通して、身近にある自然と水を守るという環境教育を地域の協力を得ながら行っている。



屋外のピオトープでは、コイなども飼育